

## 「公益社団法人に移行に際してのご挨拶」

平素は当協会に対しまして格別のご高配を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

平成26年度公益社団法人の移行に当り一言ご挨拶を申し上げます。

当会は千葉県をはじめとして各関係団体、会員の皆様のお蔭をもちまして平成26年4月1日より公益社団法人として正式に認定されました。

公益社団法人移行は2008年第36回通常総会において決議承認され、移行に向け、公益法人特別委員会を設立しスタートしました。

そして昨年7月に答申が出され、今年4月1日付で公益社団法人の登記が終わりましたことを報告することができました。

本当に有り難うございました。今後は公益社団法人として恥ずかしくないよう会員一同前進してまいりたいと思います。

折しも、昨年は東京オリンピックの招致が決まり、2020年に56年ぶりに東京オリンピックが開催されます。

オリンピックの経済効果は民間の試算によると20兆円、雇用創出約120万人とも言われております。

1964年に開催された東京オリンピックに比べ社会資本整備がほとんどそろっている現代は、このころのような東京オリンピックほどの経済効果は期待出来ないといわれていますが、東京湾岸地区の経済効果は大きいものがあります。

しかし、千葉県の建設関係の経済効果はあまり望めなさそうではありますが、観光産業や交通・雇用などの経済効果は期待出来るそうです。

56年前に開催された東京オリンピックのような活気あふれる感動の競技シーンや日本の成熟した国際都市を世界にアピールをし、日本のものづくりの凄さを世界の人々に見てもらいたいと思います。

2019年3月には高額な建設費の削減が話題となった、イラク生まれの設計者、ザハ・ハデイド・アーキテクト設計の新国立競技場が姿を現すことでしょう。

さて2020年の建築設計業界を取り巻く環境はどのようになっているのだろうかと考えたときに、われわれ建築士事務所協会はとにかく公益社団法人としての初年度に公益性のある事業の一つでも多く着実に成功させていかなくてはならないと思います。

県民の生命財産を守り安全安心で良好な住生活が送れるよう、建築士事務所として知恵を出し、公益目的事業を行っていくことが重要で大切なことであると思います。

公益社団法人移行の年に会長に就任したということ千載一遇のチャンスと捉え中長期的に新たな事業展開をしていくことを考え実行して行こうと思っております。

会員の皆様そして関係団体の協力の下、当会一丸となって努力を惜しまず頑張る所存でございます。

本年度も、千葉県建築士事務所協会のさらなる会勢拡大、社会的地位の向上を目指して、会員の皆様と共に前進してまいりたいと思います。引き続きのご支援とご協力を心よりお願いいたしましてご挨拶と致します。

平成26年4月1日

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会  
会長 鈴木兼次